



当時写真(↑)とメンバー表(↓)

◇インターハイの思い出◇

インターハイとは全国高等学校総合体育大会のことで、昭和46年(1971年)に東京代表として四国の徳島県で行われた大会に出場しました。第1代表は帝京高校、東京予選の決勝戦で負けたので、惜しくも代表を逃したと思いましたが、東京の代表枠は2校、負けたとき初めて代表であることを知りました。関東大会の東京予選では惜しくも1対2で惜敗していたので、雪辱を果たすことしか考えていなかったというのが実情です。

東京オリンピック(1964年)、メキシコオリンピック(1968年・銅メダル)における日本サッカーの活躍で、サッカー人気が盛り上がりつつあった時代でした。当時の日本代表選手としては、釜本選手、杉山選手などが有名でした。

全国大会出場に備えての強化合宿を経て、厳しい暑さに慣らすため予定を1日早めて徳島県入りしました。初出場で予定を早めたことがトピックになり、徳島新聞の取材を受け記事として紹介されました。

1回戦の沖縄代表小禄高校には、強力DFの活躍と速攻が冴え快勝しましたが、2回戦の地元徳島代表徳島商業には、唯一人のゴールキーパーがファウルで負傷、速攻も活きずに負けてしまいました。

当時の明法には寮があり、生徒は全国から募集していました。本物の教育をするには少数教育に限ると、高校の各学年は100人に満たない家族的な小規模校でした。サッカー部員も20人に

満たないほどで、ベンチに控えの選手は少なく、50人以上の学校と比べると寂しいものでした。しかし、選手は「相手も11人、こちらも11人、部員数で勝負するわけではない」と元気いっぱいでした。あと何回勝てば東京代表などと考えず、1試合1試合に全力で臨んだことが良かったのではなかったかと思っています。みんなサッカーが好きで好きで、山登りの遠足にもボールを持っていき、蹴りながら登りました。寮生活を通じてお互いを理解し、練習に当たってはよく相談していたことなどがインターハイ出場につながったと思っています。

当時のエピソードとして、スパイク物語をご紹介します。試合ではどのチームもスパイクを履いていましたが、スパイクは高価なため、明法生は運動靴で試合をする生徒が半分以上もおり、他校と比べるとちょっと異様で笑われたこともあります。しかし、勝負では一歩も引けをとることはありませんでした。全国大会出場が決まりスパイクをカンパでいただきましたが、やっぱり履き慣れた運動靴がよいと、運動靴のままの生徒もいました。

当時の部員の高校卒業後の進路ですが、GKは東京大学へ進み大企業の重役となり、DFの要は大学入学後、空手に転向して日本一になり警察関係の幹部をしています。

この明法杯サッカー大会に出場しているみなさんも、サッカーが好きで好きでがんばっていることでしょう。チームの勝利を目指して、みんなで相談したり助け合ったりすることは、どんなに大変でもかけがえのないものです。みなさんの人生の一コマとして、この大会で大いに輝くことを祈っています。

(昭和46年度サッカー部監督 大谷 泰造)

明法高校(東京)					
監督 大谷 泰造					
主将 西岡 敏成					
番号	位置	氏名	学年	身長	体重
1	GK	森内 昇	2	176	72
2		高梨 洋一	2	170	62
3	FB	大矢 甚八郎	2	170	56
4		西岡 敏成	3	177	75
5		伊能 政道	2	158	54
6	HB	福沢 敏	3	174	60
7		中川 明彦	3	166	60
8		仲本 三蔵	1	163	63
9	FB	伊久美 聡	3	166	60
10		木村 義明	3	174	64
11		吉川 次郎	3	165	57
12	Sub	種口 正樹	2	174	65
13		石川 和裕	2	167	58
14		和田 康裕	2	165	60
15		小野田 正明	2	170	60
16		中谷 建吉	2	169	58
17		中村 浩之	1	172	59
ユニフォーム					
上 衣 オレンジ					
パ ン ツ 白 オレンジ					
ス ト ッ キ ン グ オレンジ					
主なる戦績					
1-1 日大 豊山					
2-1 小松 川					
4-0 向ヶ丘					
1-0 成 蹊					
2-1 城 北					

徳島市内ではサッカーの練習会場・城西中で午前十時過ぎから東京明法がかんかん照りのグラウンドで気合のいい初練習。「初出だし、暑さにならそうと思って」という同校は予定より一日早い徳島入り。このため練習割り当てはなかったが、無理にたのみこんで同会場に乗り込んだ。大谷監督は「沖縄小禄に勝てばつぎは地元徳島商。胸をかきつるつもりでがんばります」と汗びっしょり。選手たちも上半身はだかだか「暑い、暑い」を連発しながらも意欲的な練習。このほか優勝候補の一角・藤枝東が城北高、浜名が富田中で調整に励んだのをはじめ、この日は各練習会場で十校余りがひと汗かいた。